

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 市民・公明クラブ

報告者 山科 正仁

【全体的事項】

1. 視察日程 平成30年 7月17日(火)～19日(木)
2. 調査事項(視察先)
 - (1) 剣淵町教育委員会 教育課 社会教育グループ・絵本の館担当絵本の館事務室
TEL: 0165-34-2624/FAX: 0165-34-3345
 - (2) 北海道旭川市 市役所内担当課
〒070-8525 北海道旭川市6条通9丁目(総合庁舎)
代表電話番号 0166-26-1111
 - (3) 富良野市役所 市民協働課
〒076-8555 北海道富良野市弥生町1番1号
電話 0167-39-2311 FAX:0167-39-2330
富良野市中御料 指定管理者 NPO 法人ふらの演劇工房
電話 0167-39-0333 FAX0167-22-3975
 - (4) 社会福祉法人 光の森学園・・・(民間事業)
〒064-0945 札幌市中央区盤溪259番地の5
TEL. 011-615-2401/FAX. 011-613-1409
3. 視察参加議員(4名)
 - ・佐藤 卓也(代表)
 - ・小野 周一
 - ・高橋 富美子
 - ・山科 正仁

【具体的事項】

調査事項(1)

(1) 絵本によるまちづくりについて

(視察事項)

・30年前に「絵本によるまちづくり」を策定された経緯について、また住民の反応など

- ・「絵本の里」と定着されるまでに町ぐるみで取り組んだ活動について
- ・読み聞かせの活動内容について
- ・絵本を通してのこころの教育、ひとづくりについて
- ・「絵本によるまちづくり」を継続するための今後の課題等

■視察日時 平成30年 7月17日(火)

□午前・☑午後 14時00分 ~ 16時00分

■所 感

・剣淵町は北海道の中央より北に位置し、人口約3100人、美しい田園風景が広がる小さな町であるが「絵本の里」として、また、映画「じんじん」のロケ地として年間3万人が訪れている現状である。

この絵本によるまちづくりは30年前、まちの青年たちが講演会に参加、そして心を動かされ、剣淵をこころ豊かな絵本のふるさとにしようと思い立ったことにはじまる。活動当初は「剣淵は農業のまち、絵本で飯が喰えるか!」との声もあったが町民は仕事の合間を縫い、子どもたちに絵本を読み聞かせ豊かなこころを育ててきた。

そして福祉と農業の分野での新たな取り組みにより「絵本の里づくり」活動への町民の理解が広がりを見せ、新聞や雑誌に紹介され活動の積み重ねが住民意識の変化へとつながっていったと聞く。

絵本の里として位置付けたことや絵本の読み聞かせを進めることで、子供達に「聞く姿勢と集中力」が身に付き、明るく挨拶が交わされ情緒、行動に安定感のある児童生徒が多いそうである。視察を通し、改めて一冊の絵本が親と子の絆を深める事、小さな絵本がもたらす夢や豊かな心をまちづくり、人づくりに生かすことが剣淵町のめざす「絵本の里づくり」であると実感した次第である。

そして、新庄市においてもさらなる農福連携（農業を福祉関連の連携）を強化し、新庄っこの感性の育成を図ることの重要性を感じた視察であった。

調査事項(2)(3)

(2) 滞在型観光振興について

(3) 全国初の公設民営劇場の運営について

(視察事項)

(2) について

- ・見る観光から体験する観光への旅行内容の変化等の多様化する観光ニーズへの対応策
- ・観光イベントや観光施設の拡充と受け入れ体制の充実戦略の方法
- ・観光客数の季節変動の平準化に向けた取り組み方法
- ・イベントやコンベンション、フィルムコミッション事業との連携の手法
- ・地産地消の促進や地場製品の販売促進での観光振興の効果はどうか

(3) について

- ・市民の開設当初からの反響はどの様であったか
- ・他の指定管理者と違った理念が伺えるがどの様なコンセプトをとっているのか
- ・工場建設から軌道に乗った運営までの苦労はどうであったか
- ・収支の面の原状はいかがか
- ・当市でも市民文化会館があるが、もっと有効に活用できる点はないか

■視察日時 平成30年 7月18日(水)

①午前・午後 10時25分 ~ 12時00分

②午前・午後 14時00分 ~ 16時00分

■(2) についての所 感

・旭川市における観光の目玉は、旭山動物園でありこの動物園を核にしながら観光戦略施策を進めてきたという。新庄市と同じく交通の要所であり、JRや空港などその機能を十分に活用する為に、地域連携を図っており、特徴的なことは、北海道という地を活かす為にテーマを決めてエリア連携や広域的な連携をしていることであるようだ。その効果として、今までにはなかった留萌市や稚内市、紋別市などといった新たな連携において観光客数の増加に繋がっており、特に韓国や台湾、香港など海外のお客が来ており、今後も増やす為に誘客に向けての活動やリピーターの囲む為のプロモーション活動を戦略としているとの事である。

特に、観光イベントや観光施設の充実については、今までばらばらに行っているイベントや様々な大会などなるべく日程を合わせ、一定の期間で行うことで大会自体も大きくなり、旅行会社にとっても2泊3日などツアーを組みやすくなるなどの利点が増え、また、受け入れ態勢の充実については、2次交通の重要性を強く感じた次第である。例えば、バスには補助金を出したり、タクシーの運賃の割引制度などで活用しやすくし、WIFIやFREEシムカードなどによる、インバウンド対応にも対策を講じていく計画の必要性である。

更に、コンベンションやフィルムコミッションなどにも補助金を出しながら活動をしており、最近では6月8日公開の「羊と鋼の森」の映画で旭川市を中心に撮影が行われている。これは、ロケ地巡礼や家具やクラフトの町としての新たな観光客の増加が見込んだ戦略である。

新庄市に於いても、インバウンドや最上郡内で連携を図ってはいるがまとまりがない。今後は、一つのテーマを決め、東根市や鶴岡市など空港を使った連携を新たに始めるなどの柔軟な考え方で時代を見据えた連携をし、戦略的な構想を持った、滞在型観光の充実を積極的に進めていく事の重要性を再度認識した視察であった。

(3) についての所 感

・そもそものこの施設設置の発端は、日本を代表する脚本家・劇作家・演出家であり、富良野に存在した俳優や脚本家養成私塾「富良野塾」の開設者倉本 聰氏の影響を受けたことである。

施設の内部の案内を富良野塾出身である太田館長にさせていただいた。

まずは、コンセプトの素晴らしさに驚かされた。一例をあげるが、まずは、コンパクトでしかも無駄の無い配置類、そして、舞台劇を主眼とした観客席の配置と奥行きを階層分けして、大小中のイベントの器にあわせて対応する手法であるという。そして、第二に驚いたのは、グリーンルームという聞きなれない部屋の存在である。これは、無機質に演劇をこなす俳優達に、自然と安らぎを取り戻させる部屋であるそうだ。

もちろん当市の施設にはそのようなものは存在しない。ただただ大きい箱であると痛感したところである。今後の当市の、公共施設の建設・更新・複合化等の有り方について大いに刺激を頂いた。特に視察事項には明記されてはいないが、ふらのマルシェの構想が顕著である。ここでは、幼児施設と老人施設をコアにしたマルシェが展開されており、開設と周知と同時期に全国より観光客（インバウンドを含む）はもちろん、行政視察の要望が相次いでいるそうである。

やはり、今後のイベント的施策においては、単発な公共施設等ではなく、しっかりとした集客機能を持った施設との複合化を重点としていく必要性を強く感じた良き視察であったと考える。なお、多忙中にも関わらず、自家用車にて移動や送迎を行って下さった職員の方々へ感謝の意を申し上げる次第である。

調査事項（４）

・障がい者支援施設の生活支援、作業指導、社会復帰に向けての訓練などについて

（視察事項）

・先方の都合にてキャンセル

（理由；急遽、一部の入所障がい者の情緒が著しく不安定になってきており、視察できる状況ではないとのこと）

■視察日時 平成 年 月 日（水）
□午前・□午後 時 分 ～ 時 分

■所 感

・実現場の視察は叶わなかったが、障がい者施設における「隠れたる大きな課題」を感じた。いわゆる、すべてがWINではなく、公表できない苦勞が存在するという事である。これは大いに、リスクとして認識すべき事例であろう。